

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 25 日作成)

委員会名	住宅小委員会	主 査 名：小林秀樹
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会	委員長名：服部岑生
設 置 期 間	2000年 4月 ~ 2004年 3月	
設 置 目 的 各年度活動計画	本小委員会は、「住居・住宅地(大会発表論文分類による)」を対象とした分野において高層居住や住空間制度等の今日的課題を研究することを目的とする。5つのWGを通して各年度あるいは中間年度に研究成果に基づくシンポジウム等を開催し、最終年度に集合住宅計画に関する単行本を発行する計画である。	
委員構成 (委員名(所属))	小林秀樹(千葉大) 鈴木雅之(千葉大) 篠崎正彦(昭和女大) 大橋寿美子(日女大) 野口孝博(北大) 西村伸也(新潟大) 高田光雄(京大) 杉山茂一(大阪市大) 初見学(理科大) 浅沼由紀(文化女大) 鎌田一夫(東京ガス) 沢田知子(文化女大) 瀬渡章子(奈良女大) 園田真理子(明大) 花里俊廣(筑波大)	
設置 WG (WG名:目的)	ライフスタイル・住文化 WG(都市のライフスタイルと住文化に関する研究)、海外集合住宅WG(海外の集合住宅に関する研究)、集合住宅フォーラムWG(外部に向けたフォーラムの開催)、日本の集合住宅WG(日本の集合住宅史の発行)、住空間制度WG(住宅に関わる制度の研究)	
2003年度予算	366,000円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	委員会開催年9回(平均10名程度が参加) WG開催年24回(平均8人程度が参加。公開研究会は20~50人程度が参加)
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 1. 集合住宅の実態調査等の成果を一般にわかりやすく示す集住の計画学(仮称)の刊行準備を進め3月に執筆完了。出版社で編集作業を行い、5月頃に刊行予定である。 本書は、最近10年間の集合住宅計画について居住後評価等に基づき生活者から見た望ましい計画のあり方を示すもので、見開きで1テーマ、約40テーマをまとめている。大会発表の成果を一般に紹介するという目的をあわせもっており、過去に2冊発行。今回が3冊目となる。 2. 近年増えている高層居住・都心居住について講師を招いて研究を進め、その成果をまとめ2月27日に公開研究会(約50名参加)を開催(ライフスタイル・住文化WG担当)。医学と建築学等の異分野が集まる研究会として有意義であった。 3. 集合住宅の新しい事業方式について講師を招いて研究を進め、その成果に基づいて3月11日に公開研究会(約35名参加)を開催(集合住宅フォーラムWGの成果)。事業方式の可能性について資料集を作成し公表している。
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 集住の計画学は、当初予定より3ヶ月程遅れての発行になるが、内容の密度が濃い単行本であり、十分に目標を達成しているといえる。 公開研究会は、いずれも好評で概ね目標は達成している。ただし、もう少しPRして聴衆を増やす努力が必要であったと思われる。 当初の本年度計画で掲げていた住宅関連の他学会との連携については、活動は不十分であり今後の課題として残されている。
その他評価すべき事項	小委員会のホームページを作成して公表している。